

# 捨

成の立ち

六年  
画数  
筆順  
オ 捨 捨

四年  
オ 捨 捨  
スリてる



「**拵**（とき放つこと）」の意味をかりた「**舍**」と、手の意味の「**手**」とを組み合わせて作った字です。

「手から物をとき放つ」という意味の字です。 「手放す」ことから、物を“する”という意味に使われています。

△九百八十四を、一の位で四捨五入すれば九百八十ですが、十の位で四捨五入すれば一千になります。

△**捨て身**（命を捨てる覚悟で行動すること。例：捨て身でしたらできない事は無い。）

△**捨て値**（まるでただみたいな安い値段。損得を無視した安い値段のことです。）

△**捨て石**（園碁で、取られることを承知で打つ石のこと。捨てるつもりで打つ石。その石は取られても、その代わり、それ以上の利益を得るという策略です。それで

「他日の利益のためにする予備行為」のことを「捨て石」と言います。）

△**取捨**（取ることと捨てる。取るか捨てるか。例：取捨選択）

△**喜捨**（喜び進んで寄附やほどこしをすること。）

使い方

使い方

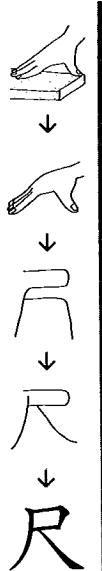
九年

# 尺

六年  
画数  
筆順  
コ 戸 尺  
4  
クン オン シャク

使い方

六年



成の立ち

親ゆびを支点にして、他の四本のゆびをいっぱいにのばし、「長さをはかる」形を表した字です。

昔は、ものさしが無かつたので、長さを測るのには、このように手を使って測りました。この長さを「尺」と言います。一尺の十分の一を「寸」(年 930)と言い、一尺の十倍を「丈」と言います。

長さの単位であるところから、「長さを測る物（物さし）」のことを使われます。例：卷尺、尺度。

また、「物の基準」の意味にも使われます。例：尺度。

熟語例

△同じ一尺。と言つても、時代により、所により、使い方によつて、長さが異なつてゐたそうです。短いものは約十八センチメートルで、長いものは約三十八センチメートルもあつたそうです。わが国では、ふつう約三十一・三センチメートルの尺が使われていました。裁縫には、長い約三十七・八センチメートルの鯨尺が使われました。

△**鯨尺**（布を測るのに使われた物さし。この一尺(二七・八cm)がふつうの一尺二寸五分に当たります。長いので鯨尺と言いました。）

△**尺度**（「物さし」のこと。また、「物事の基準」の意味）

△**縮尺**（地図に使われる物さしで、これで地図を測れば、実際の距離を知ることができます。）

六年

九年